

「温かく豊かな言葉」の使い手に～12月は人権月間です～

先日、病院にお見舞いに行った際、窓から美しい東山の山並みが見えました。ちょうど、木々の葉が赤色や黄色に色づいていましたので、まさに「山装う」という言葉がぴったりだなと思いながら、しばらく眺めていました。

さて、この「山よそおう」という言葉ですが、4年生の子どもたちが国語で学習します。「ごんぎつね」のお話に続いて、「秋の風景」というページがあり、ページの上半分には美しい秋の山の写真が掲載されています。一行目には「どんな時に秋を感じますか。あなたが見つけた秋の風景を、詩にしましょう」と書かれており、子どもの書いた詩が例として載っています。そして、その後に「山よそおう」という言葉が小見出しのように大きな字で書かれ「秋になり、葉が赤や黄に色づいて、山全体がはなやかにいろどられている様子。」という説明に続いて、「色づく そまる 紅葉（こうよう） 黄葉（こうよう） もみじがり」という関連する言葉が書かれています。今の2年生以上の子どもたちは、国語の時間に春・夏・秋・冬それぞれの季節ごとに季節を表す言葉を探したり、季節を感じた時のことを文章に書いたり、「枕草子」を暗唱したりする学習を行っています。私自身は、「山装う」という言葉は、「山笑う」や「山眠る」などとともに、中学生か高校生の頃に出会ったように記憶しています。子どものうちにこのような美しい言葉と出会い、使えるようになると言葉が豊かになりますね。

また、2年生の子どもたちは、「うれしい ことば」の学習で、どんな時に、どんな言葉を使ってもらおうと嬉しいかを書いて発表し合います。国語の学習ですので、書くことはもちろん大切ですが、それだけではありません。『一人で校庭を歩いていたら、どいさんが「いっしょに遊ぼう。」とさそってくれました。こんどは、私がさそおうと思います。』という例文にありますように、心が温かくなる言葉やほっとする言葉を知り、使えるようになることも、人間として、社会の一員としてともに生きていく上で重要なことだと思います。

温かく豊かな言葉は、温かく豊かな心から生まれます。また、温かく豊かな言葉は、周りの人々の心を豊かにし、幸せにします。しかし、荒々しい言葉を使っていると、心も荒々しくなってしまう。そして、今も、言葉によって深く傷つき、夢や希望、命までも奪われてしまった子どもたちの悲しいニュースが後を絶ちません。12月は、人権月間です。まず、私たち大人が温かく豊かな言葉の使い手となることで、子どもたちの心を豊かにし、幸せにしていきたいと考えています。是非、ご家庭でも始めてみてください。